

佳作

バスケットの楽しさ

岡山県 倉敷市立大高小学校四年 渡邊 羽菜

私は三年生のときに、バスケットボールを始めた。始めたきっかけは、お姉ちゃんにさそわれたからだ。

体けんに行ったときは、とにかく楽しくやっていった。私は体けんに行ったときに、「バスケットボールが、こんなに楽しいなんて」と思った。一カ月後、私は入部した。チームのみんなはやさしくて、声をたくさんかけてくれた。そして、入部して半年たつと、コーチはすぐおこるようになった。そのときはとてもくやしかった。でも自分は「成長したんだ」と思った。おこられなかったら何も上達しないからだ。おこられるのはいやだけど、うまくなるためにはおこられないと自分のためにもならないからだ。私はだんだんとチームになれていった。友達もできたし、バスケットボールもすごく楽しくなった。

バスケットの練習の日になると、早く行きたくてすぐ心がドキドキワクワクしている。私は練習にもなれて、練習は少しきらいなのもあったり、好きなものもあったりする。私はその中のきつい練習は、毎日つかれるけどやっていた。

十月に初めての試合があった。そのときはすごくきんちょうした。結果は負けてしまった。そのときはなみだがとまらなかった。

その日から毎日、外と家の中で練習をした。

二回目の試合のときは、きんちょうしなかった。なぜなら一回試合をやったからだ。五回戦あった。一回戦目は負けてしまった。二回戦目も負けてしまった。三回戦目も負けてしまった。四回戦目も負けてしまった。五回戦目は、勝った。今までの試合で初めて勝った試合だ。そのときはすごくうれしかった。そのとき私は「みんなのチームワークがあったから勝てたんだ」と思った。そのときに「これからチームワークを続けよう」と思った。

私はいろいろな試合に出て、ダメなところがたくさんあるけど、いいところも少しある。自分はダメなところが多くて、いいところはないと思っていたけど、いいところもたくさんあることを知った。こ

れからは自分のダメなところばかりを見つけない、いいところもたくさん見つける。

私は他のチームのプレーを見て、私はまだまだだけど、他のチームのプレーは、私のはんせい点になつてゐるから、そのはんせい点を自分のプレーで直していきたいと思っている。

これからは、練習をしっかりとってだれにも負けなようなプレイヤーになれるようにがんばる。

私はこれからも、バスケットボールを楽しくやりたい。